

日常生活を支える地区の拠点

おがわ なおと
小川 直人

民主党・市民連合



問 少子高齢化が進み、郊外住宅地で暮らす市民にとっては、買い物や通院などの日常生活を支える地区の拠点が必要であり、利便性が高く、暮らしやすいまちづくりが緊急の課題であると思いますが、どのように考えますか。

また、厚別副都心の機能を高めることは、本市全体の発展に寄与すると思いますが、どのように考えますか。

答 市民が安心して生活していくためには、身近な徒歩圏内で、日常生活やまちづくり活動に必要な機能が提供されることが重要であると考えます。厚別副都心についても、少子高齢化を踏まえた、時代にふさわしい拠点の在り方を検討していきたいと考えています。

女性が安心して暮らせるまちづくり

むらかみ
村上 ゆうこ

民主党・市民連合



問 女性が安心して暮らせるまちづくりのためには、DV(配偶者からの暴力)被害者への支援という枠を超えた、暴力をなくすための取り組みが必要です。特に性暴力への対策については、積極的に取り組むべきだと考えますが、いかがですか。

答 性暴力被害者への支援については、カウンセリングなどの相談に加え、病院や警察などの関係機関への付き添いを行うなど、被害者に寄り添った支援を検討し、一つ一つ着実に取り組んでいきたいと考えています。

今後の社会福祉政策

ふくだ こうたろう
福田 浩太郎

公明党



問 わが党は、ソーシャル・インクルージョンの理念に基づき、高齢者や障がい者、子育て中の保護者などを対象として、これまでの縦割りのサービスを越えた、行政、事業者、NPO団体、地域関係者、専門家などによる「フレキシブル支援センター」の設置を提唱しています。

現行の福祉制度のはざまにあって、本当に支援を求めている人々に、必要な支援が行き届く福祉社会を築くため、今後どのように取り組もうと考えていますか。

答 本当に支援を求めている人々に、支援が行き届く福祉社会を構築するためには、支援を必要とする人々を救う網の目をより一層細かくしていくことが必要です。

今後は、現在策定中の地域福祉社会計画に基づき、福祉行政の質を高めるだけでなく、市民による支え合いをより一層進めるために、行政と地域の連携体制を強化し、地域住民や関係団体が、自主性を持って支え合い活動に取り組めるように支援していきたいと考えています。

市議会の動き

2月14日に招集された第1回定例会の中から、2月20日、21日、22日の代表質問の主な内容、3月10日までに議決された議案などについてお知らせします。3月11日以降の内容は、5月号でお知らせします。なお、代表質問については、ホームページの録画中継でもご覧になれます。

雇用創出5万人

こすだ さとし
小須田 悟士

自民党・市民会議



問 市長のマニフェストである雇用創出5万人の内訳として、就業サポートセンター事業などによる就職紹介人数と企業誘致などによる雇用創出人数について、見込み数値を示してください。また、市長が強調する福祉、介護、保育分野の就職紹介人数と雇用創出人数の見込み数値を示してください。

答 就職支援で2万9,000人、特別養護老人ホームや保育所の新設など本市が取り組むさまざまな事業の効果として2万1,000人の雇用創出を見込んでいます。また、福祉、介護、保育分野については、就職支援によるものを除いて、2,300人程度の雇用創出を見込んでいます。

全国学力テスト

あべ ひであき
阿部 ひであき

自民党・市民会議



問 全国学力テストに全校参加をせず、子どもが自らの位置を知る権利や、位置を知ることによって伸びようとする権利を取り上げていることは、子どもの権利の侵害であると思いますが、いかがですか。

答 日常の小テストや定期テストなどにより、子どもの学力や学習状況を把握し、その評価を還元しながら指導に活用しています。子どもたちは、その時々において、自らの学習状況を確認し、次の学習に生かしています。

委員会の主な活動状況

(2/11～3/10)

総務委員会

家庭ごみ収集方法等に関するあり方検討委員会からの最終報告および第3次札幌市産業廃棄物処理指導計画について、環境局から説明を受け、質疑を行いました。

(2/13)

ごみ運搬用管路事業の現状と廃止協議について、環境局から説明を受け、質疑を行いました。(2/24)

「手稲プールの存続を求める陳情」の審査を行い、継続審査としました。市民評価を受けた施設に関する市民意向調査等の結果報告について環境局から、公立大学法人札幌市立大学の中期計画について市長政策室から説明を受け、質疑を行いました。(2/28)

財政市民委員会

白石区複合庁舎整備基本計画(案)について、市民まちづくり局から説明を受け、質疑を行いました。(2/24)

第一部・第二部予算特別委員会

副委員長の互選、理事制の設置、審査日程、発言方法について決定しました。(2/22)

平成24年度予算案などを審査しました。(2/29、3/2、3/6、3/8)

「公契約条例の早期制定を求める陳情」の審査を行いました。

(2/29、第一部予算特別委員会)

議案審査のための常任委員会

関係する各常任委員会において、それぞれ審査を行いました。

(2/14、2/24)

■ 編集 札幌市議会事務局
☎211-3164 FAX 218-5143
■ 市議会ホームページ
www.city.sapporo.jp/gikai

国旗・国歌、 除雪の夏場業務

きむら あきお
木村 彰男
みんなの党



問 上田市長はこれまで、思想・良心の自由を理由に、自らの国旗に対する敬礼拒否を正当化し、問題はないとの認識に立っていますが、この認識に変わりはないのですか。

答 国旗・国歌について、私の考え方に従来と変わったところはありません。

国旗への正対や国歌斉唱について、これを強制することにはならないというのが、私の基本的な考え方です。

問 除雪体制を維持するために加算した夏場業務の量と雪解けごろの業務の発注について、どのように考えているのか伺います。

答 今シーズンは、夏場の草刈り業務の量を拡大し、また、春先に行う凍結して隆起した歩道の補修などを追加したところ です。

今後このような検討を継続していきたいと考えています。



第1回定例会

【3月10日までに可決された議案など】

○平成23年度一般会計補正予算
主に次の内容で総額76億9,086万円を補正するものです。

- ①道路除雪費の追加
- ②市営住宅の修繕
- ③小中学校耐震補強事業費の追加
- ④小中学校施設改修等整備費の追加
(太陽光パネルの設置、トイレの改修)
- ⑤給食用大型備品購入費の追加
(蒸気回転釜、食器洗浄機などの更新)

このほか、「札幌市債権管理条例案」など合計31件の議案などが可決されました。

白石区の 姉妹孤立死事件

いとう りちこ
伊藤 理智子
日本共産党



問 痛ましい事件を二度と起こさないために、生活保護の窓口では、職員が要保護者の申請意思を確認し、申請書の速やかな交付を徹底するべきです。また、申請手続きのためにきめ細かい支援体制を整えるべきだと考えますが、いかがですか。

答 現在も、相談者の申請意思を確認した上で、申請書を交付しています。また、申請書類の作成に当たり、記入方法の説明など必要なサポートを行っています。

問 姉の2回目の相談時、臨時対応として災害用のパンを支給していますが、1缶約350キロカロリーしかありませんでした。

緊急時の食料の現物支給について、マニュアル化を行うべきだと考えますが、いかがですか。

答 人道的な見地からの緊急避難的な対応については、今後どうあるべきかを検討していきたいと考えています。

子どもへの支援、 児童会館の在り方

いしかわ さわこ
石川 佐和子
市民ネットワーク北海道



問 教職員が、より一層子ども一人一人に寄り添った教育を行うことができるように、特別支援教育支援員を増員するべきだと考えますが、いかがですか。

答 特別支援教育支援員は、学校や保護者からのニーズも強く、配置による効果も高いことから、第3次新まちづくり計画に市立小中学校全校への配置を盛り込んだところであり、今後も引き続き、拡充していきたいと考えています。

問 児童会館の在り方の検討は、子どもの参加のもと進めるべきであり、地域ボランティアの方々などの意見も盛り込むべきだと考えますが、いかがですか。

答 検討の基礎調査として、地域住民を対象としたワークショップや利用児童に対するアンケート調査を実施しました。

今後も、子どもたちの生の意見を聞いていきたいと考えています。